

都城高専高学年生を対象とした英語学習指導への取り組み

笹谷浩一郎

Developing Upper Grade Students' English Proficiency at Miyakonojo National College of Technology

Koichiro SASATANI

(Received September 1, 2006)

Abstract The purpose of this paper is to introduce an approach for improving upper grade students' English proficiency at Miyakonojo National College of Technology, where the English curriculum for the fifth-year students was revised in 2004. Since then, the fifth-year students have been obliged to take English for two credits, which had been an elective subject for several years. This paper also refers to some methods the English teaching staff have taken in order to make the fourth-year and the fifth-year students acquire reading skills which enable them to read intensively or rapidly, and furthermore, to improve their TOEIC scores.

Keywords [TOEIC, STEP, Intensive reading, Rapid reading]

1 はじめに

JABEE 受審を控えた2004年度、それまでドイツ語との選択科目であった都城工業高等専門学校5年生の英語2単位が必修化された。これはグローバル化に拍車がかかる現代社会に卒業生を送り出す高等教育機関として、高学年生の英語教育を充実させるべきとの校内外からの要望もさることながら、JABEE が求める能力・知識・素養の一つとしてあげられている「国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」を測る目安として、TOEIC テストの受験が求められることになったことが大きく影響している。そのため、4, 5年生の授業においても TOEIC 対策が不可欠となったが、本校の学習・教育目標には「英語で書かれた専門分野の文献が読解できること」「日常的な話題について外国語でコミュニケーションができること」があげられており、学習・教育目標の達成を目指すことと並行して TOEIC テスト対策を行うことが必要となった。

筆者は2003年度は4年生、2004年度は4

年生、5年生、2005年度も4年生、5年生の授業を担当する機会を得た。この間、4年生には模擬試験に相当する TOEIC IP テストの受験が義務づけられ、その得点は成績評価の一部として加えられることになった。2006年度は専攻科の総合英語を担当しており、年に数回 TOEIC IP テストを受験させている。筆者にとって TOEIC に関する指導をするのは初めての経験であり、学習・教育目標の達成と TOEIC 指導との両立を目ざし試行錯誤を繰り返すことになったが、この期間に筆者が実践してきた取り組みについて報告し、高等専門学校高学年生および専攻科学生に対する指導の一つの試みとして提示したい。

2 教材の選択

本校の4, 5年生は、JABEE 受審の対象となる「生産デザイン工学プログラム」の前期課程、専攻科の2年間は後期課程に相当するため、JABEE が求める基準を満たす必要があるが、同時に本校の学習・教育目標の達成が不可欠である。そのため、教材の選

扱においてはどの段階でどのような内容を扱うかについての展望が求められた。

4年次においては、読解を中心とした教材を選んだ。その理由として、学習・教育目標に「英語で書かれた専門分野の文献が読解できること」とあり、低学年までは読解を中心とした授業が行われておりスムーズに学習に入れると思われたこと、TOEIC テストのリーディングセクションでも様々なジャンルの英文を読む能力を問う問題が中心であることがあげられる。5年次においては、就職活動、卒業研究等で学習時間に制限があることから、英文法関連の教材を使用して演習中心の授業を行うことにした。2006年度の専攻科1年生については TOEIC 対策としても使用できるよう編集された総合教材を使用している。

4年次、5年次とも、電子計算機センターに導入された ALC 社の ALC Net Academy というオンラインソフトを利用した。当初は、5年生に購入させた教科書が文法中心だったため、読解練習が不足気味となることが懸念されたが、この Net Academy のリーディング力強化コースを活用することで程度克服できた。また、リスニング力強化コースもリスニングスピードを変えられるなどの利点があり、リスニング対策として大いに役立つものであった。

これらの教材を、学生の学習への取り組み状況、理解度等を踏まえながらいかに効率よく活用するかが課題となった。

3 学習への動機付け

4年次の年度当初は学生に対し英文を読む力をつけることの重要性を説くと同時に、TOEIC の読解問題に対応するには普段から多くの英文に触れることが大切であることを話した。学生が興味を持てるよう、異文化コミュニケーションに関する英文、さまざまな社会、職場に関する英文を取り上げた。そのジャンルを以下に示す。

- ・ 娯楽、芸術
- ・ 自然、科学
- ・ 海外旅行
- ・ 銀行、ローン
- ・ マーケティング、広告
- ・ 住宅、不動産
- ・ 健康、運動
- ・ 交渉、契約
- ・ その他

5年次の年度当初は既習の文法事項を復習することで実際のコミュニケーションで使える表現を身につけようと呼びかけた。授業時数の関係で扱う文法事項を絞り込む必要があり、市販の TOEIC 関連の問題集や模擬問題を参考に検討した結果、以下の事項を中心に学習することにした。

- ・ 仮定法
- ・ 関係詞
- ・ 時制
- ・ 比較
- ・ 不定詞
- ・ その他

また、本校は長年に渡り、実用英語技能検定（英検）および工業英検の会場校となっており、それぞれの試験に対する学生の意識は非常に高い。特に英検については1年生終了までに3級以上、3年生終了までに準2級以上を取得することを目標にしていることから毎年多くの学生が挑戦しつづけている。そのため、平常の授業時から教材の一つに英検関連のものを取り上げて演習を行ったり、定期試験の試験範囲に含める他、長期休業中の課題として与えるなどの指導を行っており、学生の意欲も高いことから準2級にかなりの学生が合格し、2級まで取得する学生も増加傾向にある。このように、本校の英語学習においては英検が動機付けの材料として非常に大きな存在である。

そこで、4、5年生の学習においては TOEIC を英検のように動機付けの材料とすることが有効であろうと考え、低学年生で英検を扱ったのと同じような方法で TOEIC を扱ってみることにしたのだが、指導する上で大きな困難に直面することとなった。それは990点満点でのスコアを出す TOEIC と、1級から5級までの級で受験する英検との形式の違いによるものであった。いずれも筆記試験、リスニングテストから成り、4つまたは3つの選択肢の中から正解を選ぶという点では共通しているものの、問題の質、量で大きな違いがあり、英検の問題に慣れた学生の戸惑いは予想以上に大きなものであった。

英検は基本的に自分の実力にあった級を受験でき、試験のほぼ60%正解できれば合格する。そのため、受験に備えて練習問題を解く場合でもほぼ50%以上の確率で正解できる。ところが TOEIC の場合は実力に関わらず全員が同じ問題を課されるため、50%つまり500点以上正解することは本校の学生にとっては極めて難しく、350点から400点を目指すのがやっとという状況であった。こういう状況で

TOEIC の練習問題をそのまま使っても学生は自信をなくすだけで、英語嫌いに拍車がかかる一方のように思われた。そのため、授業の度に解説、ヒントを満載した補助教材を提供することが必要となった。

4 単語力不足への対応

「高専の学生は英語力がない」と言われ続けて久しいが、多くは単語力不足が原因ではないかと思われる。そのため専門書をじっくり正確に読むときの精読 (intensive reading) では結果的にほとんどの語について辞書を引くはめになったり、短時間で文章の大意を把握する速読 (rapid reading) ではさっぱり内容がつかめないということになっているのではないかと思われた。というのは、初めて TOEIC の練習問題に取り組ませた時に、問題を解く以前に問題文の意味がわからないという学生が多かったからである。TOEIC の問題は以下のように構成されている。

- Part I. 写真描写問題
- Part II. 応答問題
- Part III. 会話問題
- Part IV. ナレーション問題
(以上リスニング問題)
- Part V. 空所補充問題
- Part VI. 誤り指摘問題
- Part VII. 読解問題
(以上リーディング問題)

このうち、Part I の写真描写問題、Part II の応答問題については、使われる単語自体は易しいものが多く、読まれる英文の速さに慣れてさえいればある程度対応できる問題である。ところが、Part III の会話問題、Part IV のナレーション問題ではビジネス、経済、娯楽などさまざまな場面を想定したものが多く、それぞれの場面でよく使われる語を知っていなければ状況を理解することは難しい。

例題 1

Woman: Did you sign the invoice yet?

Man: No. I haven't had a chance to check them.

Woman: Leave them on my desk when you're done with them, please

例題 2

We've recently decided to open a branch office in London. This will help us to take orders from

Europe more quickly. It will help our salespeople develop closer contact with customers in Europe.

例題 1 は Part III、例題 2 は Part IV の問題であるが、下線部の語の意味を知っていなければ正解できる確率は低くなると思われる。下線部はいずれも頻出される基本語彙である。

例題 3

No sooner had these powders been mixed then they

A

B

were pressed into disk shapes of about 60mm in

C

diameter.

D

例題 3 は誤り指摘問題で、No sooner に続いて使用される語は than であるため B が正解となるが、正解にたどり着く以前に問題文の意味がわからないという学生が多かった。^{註1)}

このようなことを解消するには、1) 多くの単語を効率よく覚えること、2) 知らない語については周囲に書かれている内容から意味を推測する力を養うこと、が重要であると考え、この 2 点を中心に指導することにした。

まず、語いを増やすために定期的に単語テストを実施した。その他、TOEIC 頻出単語集、TOEIC 頻出表現集を作成し、夏季休業後に小テストを実施した。頻出単語集、表現集は当時使用していた教科書を参考にして、さまざまな場面ごとに次のような語を取り上げた。

- ・ 娯楽、食事
gourmet / microwave / appetite など
- ・ 会社
dress code / merger / advertisement など
- ・ 研究開発、科学技術
research / development / experiment など
- ・ 銀行、財務
due / profit / deposit / balance / withdraw など
- ・ 不動産
real estate / condominium / utility / rent など
- ・ その他
insurance / survey / responsibility など

実施前は 4、5 年生が小テストや休業中の課題にまじめに取り組んでくれるかどうか非常に不安だったが、思った以上に真剣に取り組む学生が多かった。

これは英語科教員が日頃から高学年になっても英語学習が不可欠であることを訴え続けたことに加え、学級担任を始め専門学科教員の励ましが大きかったためと思われる。高学年生を中心として英語学習に真剣に取り組めるような雰囲気を作り出すことは極めて重要であり、それが低学年生の学習環境の活性化につながることも期待される。

5 文法指導

本校の必修科目としての英語授業時数は学年ごとに次のようになっている。

- 1年生 6単位
- 2年生 6単位
- 3年生 4単位
- 4年生 2単位
- 5年生 2単位

1年生では英作文1単位、2年生では英文法2単位が組まれており、基礎的な文法事項については一通り学習することになるが、3年生、4年生に進むにつれて英語の授業数が減少することもあり、高学年生になった時点での文法力は非常に心もとない状況である。そのため、既習の文法事項の復習をしながら授業を進めることになるが、授業が単調になりマンネリ化することが懸念されることから、緊張感を持たせるため演習を多く取り入れることにした。予習の際には、TOEICに頻出する重要語句についてはあらかじめ指摘し、意味を推測した上で辞書を引くことを義務づけた。

また、学習した事項の定着を図り、実際にコミュニケーションの道具として使えることを目指し、一つの章が終わる度に復習テストを実施した。このテストでは学習した表現を暗記させ、そのまま解答させる形式の他、それらの表現を使って自由作文を書かせる問題も含めることで言語運用能力を高めることを意識した。

6 英文読解指導

2003年11月に4年生全員を対象に本校で第1回目のTOEIC IPテストを実施した。初めての受験であり、十分な対策も取れていなかったこともあって、全体の平均点は300点程度に留まったが、リスニングセクションの平均が190点程度だったのに対し、リーディングセクションの平均は110点と読解能力の低さが際だつ結果となった。学生に聞

き取り調査を行ったところ、時間が全く足りず、Part VIIの読解問題にはほとんど対応できていないことがわかった。これは、TOEICの読解問題で求められる、短時間で英文の中から必要な情報を見つけるという能力に欠けていることが原因と思われた。それまでの読解の指導は精読(intensive reading)が中心であり、一方で英検対策として大意把握などの指導も行ってきたが、結果的にTOEICには十分対応できないと判断せざるを得なかった。

そこで、さらなる対策として、精読に加え、限られた時間内に必要な情報を見つける速読(rapid reading)を多く取り入れることにした。その際、速読、精読をバランスよく取り入れることに留意した。時間をかけ、辞書を活用して正確に情報を読みとる精読は、専門書やマニュアルを読む必要に迫られることの多い高専生には必要なトレーニングであり、速読、精読のどちらか一方に偏ることなく取り組めるよう努めた。授業時数に限りがあることから、一つの教材に対し、予習時に速読、精読の二段階で読ませることが効率的と考え、その方法での予習を義務づけた。速読の段階での辞書の使用を禁じ、未知の単語については前後の内容から意味を推測する練習を多く課した。以下は当時使用した予習用教材の一部である。^{註2)}

資料1 予習用教材作成例

Unit 9 Franchising

- 1) 本文中の重要語句の意味を推測してみよう。

(辞書を使わないで)

segment	define
right	detailed
instruction	specify / specific
length	exchange
expertise	advertising
independence	despite ---

- 2) Comprehension Questions の答えを完成させましょう。

(辞書を使わないで)

1. What is a franchise?
It is () .
2. What does the parent company offer?
It offers () .
3. What do the franchisees give up?
They give up () .

- 3) 次の訳を完成させましょう。(辞書を使わないで)

フランチャイジング

フランチャイジングはアメリカ経済で最も急成長している

() の一つである。フランチャイズは () と定義されている。親会社がその方法について () を与える。親会社はまた、フランチャイズを展開する () と、行われる () を ()。フランチャイズを与えられた個人や団体はフランチャイジーと呼ばれる。一方、さまざまなサービスを提供し、フランチャイズを与える方はフランチャイザーと呼ばれる。フランチャイザーはサービスを提供するのと引き替えに相応の支払いを受ける。

親会社がフランチャイジーに ()、ビジネステクニック、全国向けの () を提供するので、初心者でさえ極めて容易にビジネスを始めることができる。その一方で、親会社に売り上げの一部または決められた年間料金を支払う。また、() をあきらめ、フランチャイザーから () のロゴ入りの全商品を () しなければならない。いくつかの ()、フランチャイジングは世界中で成長している。

4) 辞書を使って、上の1) 2) 3) を完成させましょう。

学生に対しては1) から3) にかけては速読、4) では精読で対応するよう事前指導を行った。速読の際には一つの英文につき3分から5分程度の制限時間を設け、読むスピードを高めることも意識させるようにした。

7 オンラインソフトの活用

本校の電子計算機センターに導入された ALC 社の Net Academy というオンラインソフトの TOEIC 初級・中級コースは次の5つのプログラムから成る。

1. リスニング力強化コース
2. リーディング力強化コース
3. TOEIC テスト演習
4. TOEIC パート別演習
5. 中間テスト

このうち、リスニング力強化コース、リーディング力強化コースを中心に演習を行った。いずれもモニター画面に表示される指示に従って学生一人一人のペースで学習できるよう構成されており、低学年の頃から演習等でコンピュータの操作に慣れた本校学生には格好の教材であると期待された。

初めて授業に導入した頃は物珍しさもあって学生は意欲的に取り組んでいたが、時間が経つにつれて新鮮味が薄れ、ただ指定された課題を消化するだけの学生が増えてきた。定期試験の出題範囲に入れて

実際に出題してみても期待したほど得点は伸びず、積極的に取り組む学生とそうでない学生の二極化が進む傾向にあった。

そこで演習中の学生の様子を観察し、教材内容を詳しく見たところ、初級コースとはいえ、問題文、設問文の中に学生には馴染みのない語、表現が多く含まれており、そのままでは効率的な練習ができないことがわかってきた。問題には「注釈 ON」という辞書代わりの機能があるが、それだけでは不十分であった。また、一見積極的に取り組んでいるように見える学生も、備えられた機能を十分に活用することなく単に課題を消化しただけという場合が多かった。これはマウスをクリックするだけで学習を進められるという便利さが、かえってマイナスに働いているためと考えられた。

以上のことから、マウスで手軽に学習を進めることに加えて、あえて「不便な」作業、つまり鉛筆を片手に考える作業を課し、一つの教材にじっくり取り組ませることにした。そのため、1回の授業で扱う内容はリスニング力強化コースとリーディング力強化コースの問題をそれぞれ1題ずつにとどめ、それぞれについてワークシートを作成、配布した。ワークシートには、学習の手順、問題を解く際のヒント、補助的な設問等を設けた。以下はリスニング力強化コースのワークシート作成例である。

資料2 リスニング用ワークシート作成例

リスニング力強化コース Unit 5 ワークシート

Step 1 First Listening

Start をクリックし、問題を通して聴きましょう。

Step 2 Quiz Time

- 1) Q1 から Q3 まで解答する。
- 2) 必要に応じて Q テキスト表示、A テキスト表示、Hint を活用する。
- 3) 解答で正解を確認しましょう。 3 問中 () 問正解

Step 3 Discovery

1) 音声再生ボタンを押しながら、会話を完成させよう。

A: Welcome back, Mr. Harris. You only had one () () while you were ().

B: Did you () a ()?

A: It was Mr. Anderson over at Westley (). They want to () () an () some time this week.

B: Good. () () is ().

2) 重要語句の意味を予想し記入しましょう。

(辞書、注釈を使わずに)

out	take a message
insurance	set up

- 3) 英文 on をクリックして会話の () を確認しましょう。
- 4) 注釈 on をクリックし、重要語句の意味を確認し、暗記しましょう。必要に応じて日本語 on を使っても良い。

Step 4 Speed Listening

画面左の Guide に従ってリスニング練習

Normal Fast Faster

Step 5 Review

画面右下の Start Stop Pause を使って小さな声でリピート練習、シャドウィングを行う。

- リピート練習 1回目 2回目 3回目
- シャドウィング 1回目 2回目 3回目

Step 3 の 1)ではリスニングの聴き取り練習、2)では未知語の意味を推測する練習をすることになる。Step 4 および Step 5 ではチェック欄を設けて聴き取り練習、発音練習をするよう指示してある。このワークシートを使用するようになって以来、ほとんどの学生が口を動かして発音練習まで取り組むようになった。

以下はリーディング力強化コースのワークシート作成例である。

資料3 リーディング用ワークシート作成例

リーディング力強化コース Unit 2 ワークシート

Step 1 First Reading

Start をクリックし、問題文を読み終えたら Finish をクリック。

Step 2 Quiz Time

- 1. 画面右上の英文 on をクリックし、Q1 から Q3 まで解答する。
- 2. 解答で正解を確認 3問中 () 問正解

Step 3 Discovery

- 1) 重要語句 辞書、注釈を使わずに意味を予想して記入。

forecast	expect
as well as --	region
mass	stable / unstable
chance	temperature

- 2) 辞書、注釈を使わずに () を埋めてみよう。

では、明日の () です。全国的に晴れるでしょう。しかし、沖縄から九州にかけて曇りの天気が () されます。東海 () と北日本も同様です。大気 (空気のかたまり) の状態が () なので、にわか雨が雷雨の () があります。日中の最高気温と最低気温は、西日本を () 全国的に今日とほぼ 同じでしょう。西日本では高い () が () されます。

Step 4 Speed Reading

画面左の Guide に従って読みの練習をしよう。

Step 5 Review

画面右上の「表示」の「注釈」をクリックし、Step 3 の重要語句、日本語訳を確認。重要語句を暗記する。最後に英文全体を黙読、または小さな声で音読しよう。

Step 3 で未知語の意味を推測する練習と問題文の大意を把握する練習を行う。Step 4 では意味のまとまりで区切りながら英文を読む練習ができ、大意を把握しながら読むスピードを高めることが期待できる。

8 TOEIC IP テスト結果および学生の授業評価

2003年度から2005年度にかけて本校4年生が受験した TOEIC IP テストの平均点は以下の通りである。

表1 3年間の IP テスト成績

	リスニング	リーディング	合計
2003年	186.4	107.6	294.1
2004年	202.1	119.7	321.8
2005年	205.8	121.4	327.2

年々スコアは上昇しているものの、目標の350点には届いておらず、厳しい状況が続いている。

年度末に実施される学生による授業評価アンケート結果のうち、授業の難易度、授業に対する教員の工夫度、および授業に対する総合評価については次の通りである。

表2 学生による授業評価

	難易度	工夫度	総合評価
2003年	2.4	2.3	2.2
2004年	2.4	1.9	1.9
2005年	2.4	2.0	1.9

難易度は1から5までの5段階で、数値が低いほど難易度が高いことを示す。3年間数値が変わっておらず、学生は授業内容をやや難しいと感じていることがわかる。授業に対する工夫も1から5までの5段階で、数値が低いほど工夫がなされていることを示す。2004年度以降の数値が改善しているのは補助教材を多く作成、配布したことによるものと考えられる。総合評価は1から5までの5段階で、数値が低いほど評価が高いことを示す。2.2 から 1.9 へと改善しているのはこれまでの取り組みを評価してくれたものと受け取りたいところである。

9 おわりに

数年前まで、本校高学年生に対する英語の授業は異文化コミュニケーションを中心とするものがほとんどであったと記憶している。大学教養科目用に編集された教科書の中から教員が気に入ったものを選び、どちらかといえば語学力を高めるといよりは担当教員の専門性を活かし、文献、映像等を通して異文化に親しみ、理解することが中心であった。その状況はここ数年で激変し、学生の英語力を数値で証明し、保証することが求められるようになった。その結果、本校の学習・教育目標の達成と TOEIC テストでのスコアアップの二つを同時に目指さねばならなくなった。

当初は教える側にも教わる側にも混乱があり、試行錯誤を繰り返したが、そのうちに学生が落ち着いて取り組むようになってきた。これは JABEE 審査を受けることが決定して以来、TOEIC が全校的に認知されてきたこと、TOEIC に対する不安から勉強しなければならないと危機感を持つ学生が増えたことによると考えられる。

このような過渡期に高学年生の授業を連続して担当できたことは幸運であった。しかし TOEIC IP テストの平均点は目標を達成することができず、不本意な結果が続いており、さらに 2006 年には TOEIC の試験内容がリニューアルされ、今までとは異なる指導が必要となってきた。そのため、今後は今まで実践してきたことをもとに、新方式の TOEIC テストに対応できる指導法を模索し、学習・教育目標との両立を果たしながら実践していくこと、さらに専攻科の総合英語、実用英語を一層充実させることが新たな課題である。

註

- 1) 例題はすべて成美堂 Successful Steps for the TOEIC Test に収録されているものをサンプルとした。
- 2) 紹介された資料は成美堂 Practical Reading Skills for the TOEIC Test の Unit 9 の学習用に作成したものである。

参考文献

- 1) The Chauncey Group International, TOEIC 公式ガイド&問題集日本語版, 国際コミュニケーションズ, pp.13-14, 52-55, 82-90, 2000
- 2) 高梨庸雄、卯城裕司, 英語リーディング辞典, 研

究社出版, 2000

- 3) 谷口賢一郎, 英語のニューリーディング, 大修館書店, pp.28-31, 200-206, 1992